

第五章 年中行事

## 第一節 はじめに

和泊町における年中行事は、総じて淡泊である。この現象は早くからみられるが、昭和三十年代以降、経済成長などによる社会生活の変化に伴い一層強くなってきた。いる。

特に、農業技術の向上、農作業の機械化などによる農業の発展によって、人々の折り目意識は薄れ、従来実修されていた農耕儀礼も現在ではすたれて実修されておらず、また他の多くの年中行事もすでにその生命力を失っている。

調査の段階で、古老に話を聞いても、記憶があいまいであったり、行事の内容を混同しているところもあり、年中行事に対する意識の薄さがうかがえた。

こうした中で、祖霊を祀る風は現在も比較的強く残っているものの、その多くは年忌祭を主としており、祖霊祭に関連して実修されていた「シヨージ」などはすたれ

てしまっている。

主な年中行事は、昔から神月と称せられている旧の一月、五月、九月と、それに七月、八月に多い。

このことは、古くからの農事暦と少なからぬ関連があるようである。

一月から三月にかけては、穀物の播種はしゅの時期であり、七月、八月はそれらの収穫時期に当たるので、そのことから農事暦となんらかの関連があったことを察することができる。

年中行事の実施や方法については、各字間に多少の差異はあるものの大差はないようである。

年中行事を隣島と比較したときに、他の島々では諸行事が、全島または一地域を単位として同一日に行われるのに対し、沖永良部では家を単位として、各戸で行われる風が強い。これは、本来的なものではなく、本初は他と同じであったものと思われる。

以下、月ごとの行事を陰暦に準じて記すことにする。

なお、各月別の年中行事に、一部文語体の文章があるのは、「沖永良部島郷土資料」からそのまま転記したものである。